専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充〔シ06〕

研究組織　江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、吉田暁子、小林達朗、小野真由美、城野誠治、寺﨑直子、尾野田純衣、大前美由希、田村彩子、阿部朋絵、鈴木良太、藤井糸子（以上、文化財情報資料部）、山梨絵美子、永崎研宣、片山まび、川瀬由照（以上、客員研究員）、久保田裕道（無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務）、早川典子（保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務）、西和彦（文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務）

目　　的　当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。あわせてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

成　　果

1．全所的な文化財情報の発信：アーカイブWGを例年通り4回(4月21日、9月27日、12月23日、3月23日）開催し、アーカイブの拡充と積極的に情報発信を推進するための協議を行った。

2．当研究所が所蔵する昭和30年代の文化財調査写真を利用し、現代の画像技術を応用して、現在損傷を受けてしまっている、与謝蕪村筆「寒山拾得図襖絵」(重要文化財）の復原を、所蔵者の妙法寺（香川県丸亀市）と共同研究として開始した。現地調査撮影を行い、その成果の一部を口頭にて発表した。

3．売立目録デジタルアーカイブの改良：元年度より資料閲覧室にて公開しているデジタルアーカイブの校正作業を進め、より正確なデータ提供に努めた。

4．通常は資料閲覧室を週に3回公開してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2年度に引き続き事前予約制とし、週1回(5月は臨時休室、11月からは週2回）開室した。開室日・利用者数は減少したが、デジタル資料のオープンアクセス化の増加や、インターネット公開のデータベースの拡充、遠隔複写サービスなどを積極的に行い、研究支援を実践した。

資料閲覧室事業の運営

1．年度内資料受け入れ数
和漢書947件 洋書138件、展覧会図録・報告書等849件、雑誌2,465件（合計4,399件）

2．年度内閲覧室利用状況
公開日総数69日・年間利用者合計570人

発　表

- 安永拓世：「香川・妙法寺の与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」－画像資料を活用した復原的研究－」第55回オープンレクチャー　東京文化財研究所　21.11.5

報　告

- 安永拓世：「東京文化財研究所の写真資料から浮かび上がる与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」」『Tobunken News』76 21.12

妙法寺での蕪村作品の調査

感染防止対策を行って開室している資料閲覧室